

# 令和 8(2026)年度 事業計画書

(第 34 期)

自 令和 8 (2026) 年 4 月 1 日

至 令和 9 (2027) 年 3 月 31 日

(設立許可 平成 3 (1991) 年 12 月 20 日)

公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団  
大阪府枚方市招提田近 1 丁目 9 番地

# 令和 8 年度 事業計画書

(令和 8 年 4 月 1 日より令和 9 年 3 月 31 日まで)

## 1. 令和 8 年度 事業計画の概要

令和 7 年 2 月、トランプ米大統領が 2 期目の就任後、カナダとメキシコからの輸入品に 25%、中国からの輸入品に 10%の追加関税を課すと発表しました。さらに 4 月には「ベースライン関税」10%と貿易相手国ごとの「相互関税」が導入され、世界貿易の緊張が一気に高まりました。その影響は日本にも及び、日米交渉の末、最終的に 15%の関税（自動車は従来の 2.5%から一時 27.5%に引き上げられた後、15%に落ち着いた）を負担することとなりましたが、経済の先行きには依然として不透明感が漂っています。

また、令和 4 年 2 月に始まったロシアによるウクライナ侵攻の長期化により、世界的なエネルギーや資源価格の高騰が続いています。これらの影響を受け、日本国内では円安に伴う輸入品価格の上昇や物価全体のインフレーションが継続しており、当財団の事業運営においてもコスト負担の増加が懸念され、事業計画の策定に際して十分な考慮が必要となっています。

こうした環境の中、令和 7 年度の理事会をはじめとする各種会議は、オンラインを併用したハイブリッド形式で実施し、その運用が定着しました。また、基本財産の運用については、円安の継続により当初計画通りの収入を確保する見込みです。さらに、令和元年度より中止していた助成事業の贈呈式は、ハイブリッド形式での開催により費用を削減しました。

なお、当財団が発行する年刊英文学術誌「KONA Powder and Particle Journal」は、令和 7 年度の出版をもって休刊することとなりました。本誌は、粉体工学関連の国際的な学術誌がまだ極めて少なかった 1983 年に、粉体工学の普及啓発と発展を目指して創刊され、1995 年から当財団で出版を継続し、40 年余りの歳月を経て国際的な学術誌としての評価を確立してまいりました。しかしながら現在では、粉体工学の認知度が高まり、関連する国際学術誌が多数出版されるようになったことから、創刊当初の目的は果たされたものと判断し、No.43 ををもって休刊することといたしました。

政治的・経済的に変化の激しい状況は令和 8 年度も継続することが予想され、引き続き不透明な要素が多く残されていますが、研究助成事業を中心に活動を展開してまいります。特に令和 8 年度は、事業見直しの一環として、減少傾向にある粉体工学分野における研究を担う研究者の支援強化を図るため、博士課程学生を対象とした奨学金事業の新設準備を開始します。また、粉体工学および関連分野の発展に貢献するため、講演討論会の開催等を予定しています。今後も、有益な事業活動のさらなる発展を目指し、新たな事業の検討を進めてまいります。

## 2. 助成関連事業

令和 8 年度は、以下の①から⑤までの助成事業を実施するとともに、⑥の奨学金制度の設置準備を進めます。

予算額 2,667 万円（事業管理費を含む）

- ① 粉体工学に関する優れた研究業績に対する褒賞（KONA 賞）
- ② 粉体工学に関する研究のための研究費助成（研究助成）
- ③ 粉体工学に関する若手研究者の優れた研究業績に対する褒賞（ホソカワ研究奨励賞）
- ④ 粉体工学に関する研究に従事する研究者の育成の援助（研究者育成援助）
- ⑤ 粉体工学に関する研究成果公開の援助（シンポジウム等の開催援助）
- ⑥ 粉体工学分野の基礎研究に従事する博士課程学生への奨学金事業（新設準備）

KONA 賞は、粉体工学の分野において顕著な功績を残した研究者に授与される栄誉ある国際賞で、財団設立当初から平成 28 年度までは授賞者が日本人研究者となっていました。そこで、平成 29 年度からは新たに国際的な推薦・応募の受付体制を充実し、世界の専門学識者による厳正な審査により授賞者を選定しております。その結果、平成 29 年度以降、ア

アジア 5 名、欧州 4 名、米国 2 名の研究者が KONA 賞を受賞し、本賞は国際的な評価と知名度を一層高めています。

令和 8 年度は国際化施策の開始から 11 年目を迎えます。これまで構築してきた国際推薦・選考システムの円滑な運営を継続するとともに、さらなる充実を図ってまいります。

また、研究助成については、近年、粉体および微粒子材料に関する研究が注目されています。これを踏まえ、多様な材料の特性や応用を考慮しつつも、粉体工学の視点を基軸とした研究支援を重視してまいります。

なお、助成申請については、令和 4 年度より郵送形式から電子メールによるデジタルファイル受付へ移行し、令和 7 年度においても運用上の問題なく登録処理の簡素化を実現しました。この方法は令和 8 年度以降も継続します。

近年、博士後期課程の学生数が減少し、研究者育成に向けた支援事業の充実が必要な状況にあります。この状況を踏まえ、令和 5 年度に復活させたホソカワ研究奨励賞を通じて、粉体工学に関する若手研究者の優れた研究成果を顕彰し、若手研究者のインセンティブを高め、研究者育成を積極的に支援してまいります。

さらに、粉体工学分野における研究者を志す博士課程学生を支援する奨学金事業の新設準備を行います。

### 3. 財団自主事業

#### 3-1. 粉体工学に関する講演討論会の開催

##### (1) 予算額 696 万円

##### (2) 趣旨・内容

粉体工学の当面の重要課題を選定し、第一線で活躍する研究者（6 名程度）を招いて最近の研究成果について講演いただき、その課題に関心を寄せる研究者や技術者を広く募り、講演と討論を通じて粉体工学の発展に寄与することを目的としています。この講演討論会は毎年 1 回開催され、会場は大阪と東京で隔年交互に実施することを原則としています。

令和 7 年度には、東京にて第 57 回粉体工学に関する講演討論会を開催いたしました。そして令和 8 年度には、9 月 2 日（水）にグランキューブ大阪（大阪国際会議場）を会場として、「粉体プロセスの進歩とその応用展開」をテーマに第 58 回講演討論会を開催する予定です。本講演討論会においては、講演者と参加者の間で活発な意見交換が行われることを期待しており、実り多い討論の場となるよう努めてまいります。

また、例年は粉体工学に関する講演討論会において、KONA 賞受賞者による記念講演を開催していますが、令和 8 年 5 月に 4 年に 1 回開催される第 10 回粉体工学世界会議(the 10<sup>th</sup> World Congress on Particle Technology, WCPT10)が大阪で開催されます。この国際会議は、1990 年に京都で第 2 回が開催されて以降、日本での開催は 2 回目となります。この機会に、KONA 賞受賞者による受賞記念講演を同世界会議の中で行い、国内外から参加される著名な研究者の方々に、受賞者の粉体工学分野におけるこれまでの業績と貢献を紹介します。

##### (3) 経費および用務の分担

本講演討論会の企画に関しましては、講演者および討論の司会者の選定などを理事会で起案し決定しております。参加費はすべて無料とし、会場運営費、テキストの印刷費、講師の旅費・宿泊費、および謝礼などの経費を予算に計上しています。

WCPT10 での KONA 賞受賞講演に関しても当財団理事会にて開催を決定し、記念講演にかかる経費を予算に計上しています。

### 4. 年報の発行

##### (1) 予算額 110 万円

##### (2) 趣旨・内容

年報は、当財団の活動状況を報告するとともに、財団の助成を受けた研究の成果を公表する目的で発行しています。年報には以下の内容が含まれます。

- ① 理事長挨拶
- ② 事業内容と実施状況の概要
- ③ 役員等名簿
- ④ 助成・表彰事業
- ⑤ 研究成果等の報告

当財団の年報につきましては、初年度の年報 No.1 から印刷物で出版していましたが、平成 21 年度以降冊子での出版を取り止め、ホームページでの出版のみとなっています。同年報は、平成 29 年から、J-STAGE にも掲載され、その後、令和元年度には、PDF データが入手可能であった平成 16 (2004) 年度年報 No.12 まで遡り、バックナンバーの掲載を実施いたしました。令和 8 年度には、令和 7 年度年報 No.33 (2025) を財団ホームページに掲載するとともに、J-STAGE への掲載も進めてまいります。

## 5. 奨学金事業(新設準備)

粉体工学分野における研究者を志す博士課程学生を支援する給付型奨学金制度を新設し、令和 10 年度の開始を目指して令和 8 年度より準備を開始します。応募資格は、粉体工学分野に関する研究に従事する研究者を志す、申請時に博士課程へ進学を予定している学部学生とし、令和 9 年度より応募を開始して毎年 3 名程度を継続して採択します。また、博士前期課程修了時には、採択者 3 名のうち 2 名が就職等により修了し、1 名が博士後期課程へ進学することを想定します。採択された学生への奨学金の給付開始は令和 10 年度からで、博士前期課程から博士後期課程を修了するまでの 5 年間給付します。給付額は博士前期課程月 5 万円、博士後期課程月 10 万円を予定しています。

また、薬学部等 6 年制学部については、4 年間の博士課程へ進学する学部学生を対象とし、月 10 万円の奨学金を 4 年間給付します。

この奨学金制度の新設により、同趣旨で行っていた研究者育成援助を令和 9 年度に終了し、令和 10 年度から新制度として実行します。

予算は、令和 7 年度末で休刊する KONA 誌発行予算の一部と令和 9 年度末で終了する研究者育成援助の予算に加え、研究助成とホソカワ研究奨励賞予算の一部より継続的に拠出し、年間予算を 720 万円とします。

しかしながら、奨学金の受給者への給付は確実でなければならぬため、計画的な積立を行い事業活動収入の変動ならびに採択者数の増加に備える必要があります。そこで休刊する KONA 誌発行予算等より令和 8 年度に 500 万円を、その後、令和 9 年度に 250 万円、合計 750 万円（差額 30 万円は予備費）を奨学金制度開始準備資金として積立てます。

事業内容と予算は以下のようになります。

- ① 資金の名称：ホソカワ粉体工学振興財団 奨学金制度準備資金
- ② 活動の名称：ホソカワ粉体工学振興財団 奨学金制度準備特定事業
- ③ 活動の内容：粉体工学分野における基礎研究を志す博士課程学生を支援する奨学金制度の設立
- ④ 予算：720 万円（博士前期課程：6 名×5 万円×12 か月＝360 万円、博士後期課程：3 名×10 万円×12 か月＝360 万円、合計 720 万円）
- ⑤ 準備金積立額：750 万円（年間予算 720 万円に予備費 30 万円を加えた額）

この準備金は、事業活動収入や採択者数の変動に備える原資として、使途不特定財産もしくは公益充実資金等として積立てます。

以上